

認定 NPO 法人うりずん見学ならびにひばりクリニック訪問診療の同行を経験して

国保町立小鹿野中央病院 内科 山下拓斗

私にとってプライマリ・ケアは、自治医科大学を卒業したがために「やむにやまれず」始まったものでした。しかし僻地の診療所や病院での地域医療を経験するにつれて、門戸を広く開いて老若男女分け隔てなく診察し、老人においては人生の最期まで見送った後に残された家族のケアまでするような家庭医の先輩方の姿に感銘を受け、大学で心臓や消化器など何かの専門を極めるのではなく、求めに応じて誰でも何でも広く診察をする地域の医者に憧れるようになりました。そういったなかで、認定 NPO 法人うりずんならびにひばりクリニックのホームページを拝見し、成人や老人はもちろん小児まで広く診療を行い、障害をもつ小児においては病のときのケアのみならず毎日の生活を支えるような地道なケアをされている施設があることを知りまして、ぜひ見学をしたいという思いから今回の訪問診療同行研修の募集に応募させていただきました。

まず認定 NPO 法人うりずんの活動につきご説明をいただき、日中一時支援の現場を見学させていただきました。障害を持つお子さんやそのご家族が「安心、安全、安楽」に利用できることをモットーとしているというご説明の通りに、施設の中で楽しそうに過ごしているお子さんたちの姿が見られ、また、安心安全を担保するために一人のお子さんに一人のスタッフがマンツーマンで接している姿を見て、そういった手厚い体制を作り維持するための見えない、途方もない努力が陰にあるであろうことを感じられました。また、現在の施設を成り立たせるにあたっては、日本財団、林野庁、首都大学東京都市環境部など様々な個所からの支援や、個人・団体問わず様々な形での寄付があったことを伺い、信念のある活動のもとには自然と支援が集まって来るのだということが感じられました。

次に、ひばりクリニックの訪問診療に同行し、高橋昭彦院長先生のプライマリ・ケア医としての活動を見学させていただきました。サービス付き高齢者住宅の施設訪問診療では、上は97歳までの高齢者の方々を診察されている中で、たとえ認知症があったとしても真摯に傾聴し、敬意を払いながら接しておられる姿を見て、高齢者の診療が中心となりがちなプライマリ・ケア医としての、初心として忘れるべきではないあるべき姿を感じました。癌の終末期の患者さんの訪問では、地域での終末期在宅医療の担い手の不足という理由もあり遠方にもかかわらず受け入れ、訪問までの移動に時間がかかる中でも一層丁寧に時間かけて、本人のみならず家族のケアもなされている様子に感銘を受けました。NPO 法人うりずん立ち上げのきっかけとなったという障害児のご家庭の訪問では、お子さんやそのご兄弟の診療、お母様との何気ない会話のやりとりの中で、十数年という長きにわたってケアを行っている中で築かれている信頼関係を感じることができ、また小児在宅医療ならではの「成長していく中での、本人のみならず家族の変化にも応じたケア」の一端を感じることができました。内科医の私にとっては小児の診療自体経験が浅く、まして在宅診療となると尻込みをしておりましたが、プライマリ・ケア医としてのみならず出身大学の先輩でもあられる高橋先生の診療のお姿を拝見し、勉強を重ねて将来は小児まで診療の裾野を広げることができれば、との決意を新たにできました。

最後になりますが、今回の研修でお世話になりました認定 NPO 法人うりずんならびにひばりクリニックのスタッフの皆様、高橋昭彦先生に厚く御礼を申し上げます。今回の研修を生かして、プライマリ・ケア医としてさらに成長できればと思います。この度は貴重な学習の機会をいただきまして、誠にありがとうございました。